

第1学年 単元別学習内容一覧

1年①「すたあと ぶっく」

◎ 算数への導入 (わくわく すたあと)			
小見出し	時	ページ	学習内容
わくわく すたあと わくわく がっこう	1	2～5	○これから学ぶ算数の学習に対して興味や関心をもつ。【態 度】 ○問いかけに応じて集合をつくることができる。【知・技】
	2	6～7	○2つのものの集まりの要素を線で結び、1対1の対応をつけて多少を調べる。【知・技】
	3	8～9	○2つのものの集まりの要素をブロックに置き換えて、多少を考える。【思判表】

1 かずと すうじ			
目 標			指導時数・時期
○ 10までの数について、よみ方、かき方、数の系列、大小を理解し、具体物と数図ブロックを対応させる活動を通して、ものの個数を数で表すよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			7時間 2学期制：4月中旬～5月上旬 3学期制：4月中旬～5月上旬
評 価			
(知) ・ 10までの数の数観念、よみ方、かき方、数系列、大小を理解している。 (思) ・ ものの集まりをとらえ、数を数え、数を表す考え方を身につけている。 (態) ・ 身のまわりの10までの数に親しみを持って関わり、個数を数で表すよさや学ぶ楽しさを感じている。			
小見出し	時	ページ	学習内容
5までの かず	1	10～11	○教室にある5までの数に関心を持って調べる。【態 度】 ○教室のあるものと数図ブロックを対応させて、5までの数を数えたり、数字をよんだりする。【知・技】
	2	12	○1から5までの数の数字をかいたり、順序よく数えたりする。【知・技】
	3	13	○1から5までのものの数を数えて、数字で表す。【知・技】
10までの かず	4	14～15	○校庭にある10までの数に関心を持って調べる。【態 度】 ○校庭にあるものと数図ブロックを対応させて、10までの数を数えたり、数字をよんだりする。【知・技】
	5	16～17	○10までの数の数字をかいたり、順序よく数えたりする。【知・技】 ○身のまわりから10までの数のものを見つける。【態 度】
ならべよう	6	18	○10までの数や数字にあうように、数図ブロックを並べる。【知・技】
いって みよう・くらべよう・かぞえよう	7	19	○10までの数を唱えたり、大小を比べたり、音が鳴った回数を数えて数字で表したりする。【知・技】

2 なんばんめ			
目 標			指導時数・時期
○ 順序数について、数が順序を表す場合に用いられることを理解し、方向や位置を表すことばでもの順番や位置を表す活動を通して、順序数を用いるよさを感じながら学ぶ態度を養う。			3時間 2学期制：5月中旬 3学期制：5月中旬
評 価			
(知) ・ 数が順序を表す場合に用いられることを理解し、「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばを正しく用いて、ものの順番や位置を数で表すことができる。 (思) ・ 「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばに着目し、数を用いてももの順番や位置を表すことを考えている。 (態) ・ これまでの体験をもとに、順番や位置に親しみを持って関わり、順序や位置を数で表すことのよさや学ぶ楽しさを感じている。			
小見出し	時	ページ	学習内容
ならんだことあるかな	1	20～21	○生活の中で、順番に並んでいるものがあることに気付く。【態 度】
		22～23	○前後、上下、左右に並んだものをみて、順序や位置を表す。【態 度】
	2	24	○「前から何番目」(順序数)と「前から何人」(集合数)との違いを理解する。【知・技】
	3	25	○自ら起点を定めて、ものの位置を表す。【知・技】

3 いくつと いくつ

目 標			指導時数・時期
○ 10までの数について、ゲームをしたり数図ブロックを操作したりしながら数の合成・分解を考える活動を通して、10の補数関係を理解したり、0について知ったりするとともに、楽しみながら学ぶ態度を養う。			7時間 2学期制：5月中旬～5月下旬 3学期制：5月中旬～5月下旬
評 価			
(知) ・10までの数の合成・分解と、10の補数関係を理解している。 ・0について理解し、「1つもない」ことを0と表現できる。 (思) ・1つの数をほかの数と関係づけて見ている。 (態) ・これまでの体験をもとに、10までの数の合成・分解に親しみをもち、数構成の仕組みのよさや学ぶ楽しさを感じている。			
小見出し	時	ページ	学習内容
いくつと いくつかな	1	26～27	○4や5は合成・分解ができることを理解する。【知・技】
		28～29	○いすとりゲームを通して、6の合成・分解をする。【態 度】
	2	30～31	○7の合成・分解をする。【知・技】
	3	32～33	○8の合成・分解をする。【知・技】
	4	34～35	○9の合成・分解をする。【知・技】
	5	36～37	○「おはじきいれ」ゲームを通して、いろいろな10の合成・分解をする。【知・技】
	6	38	○10の補数を考えて、10の合成・分解をする。【思判表】
0と いう かず	7	39	○「おはじきいれ」ゲームを通して、0の意味や使い方を理解する。【知・技】

4 いろいろな かたち

目 標			指導時数・時期
○ 立体について、箱や缶を用いて立体を組み立てる活動や、立体の面に着目して写し取った形をいかして絵をかく活動などを通して、ものの形を認めたり、形の特徴を考えたりするとともに、形に親しみながら学ぶ態度を養う。			3時間 2学期制：6月上旬 3学期制：6月上旬
評 価			
(知) ・身のまわりにある立体の観察を通して、形の特徴をとらえたり、仲間分けしたりすることができる。 (思) ・身のまわりのものを、色や大きさ、材質に関係なく、形としてとらえている。 (態) ・これまでの体験をもとに、身のまわりにある立体図形に親しみをもち、形の特徴に目をつけるよさや学ぶ楽しさを感じている。			
小見出し	時	ページ	学習内容
いろいろな かたちがあるね	1	40～41	○箱や缶の特徴や機能に着目し、動物や乗り物などの形をつくる。【態 度】
		42～43	
にて いる かたち	2	44～45	○箱や缶、ボールなどを、形の特徴に着目してなかま分けする。【知・技】
かたちを うつして	3	46～47	○積み木の面を写しとって、面の形の特徴を利用して絵をかく。【思判表】

* さんすう みつけた！

小単元	時	ページ	学習内容
さんすう みつけた！	1	48	○すすんで算数探しに取り組み、これまでに学んだことをふりかえる。【態 度】

5 ふえたり へったり

5 ふえたり へったり			
目 標			指導時数・時期
○ 変化する数量について、増減を数図ブロックや「ふえた」「へった」ということばで表現することを通して、数の増減の意味を理解し、たし算やひき算の学習の素地を培うとともに、楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			1 時間 2 学期制：6 月上旬 3 学期制：6 月上旬
評 価			
(知) ・数量の増減に着目し、「ふえた」「へった」ということばで話をしたり、数図ブロックを操作したりして、増減の意味を理解している。			
(思) ・増減の意味を具体的な事象や操作と関連づけて考えている。			
(態) ・数量が「ふえたり」「へったり」する事象に親しみをもち、数図ブロックを使って数量を表すよさや学ぶ楽しさを感じている。			
小見出し	時	ページ	学習内容
	1	2～3	○「バスごっこ」を通して、数量の増減する場面を体験的に理解する。【知・技】

6 たしざん(1)

6 たしざん(1)			
目 標			指導時数・時期
○ たし算について、式のみ方、かき方を知り、数図ブロックや計算カードを用いた活動を通して、(1 位数)+(1 位数)=(10 以下の数)の計算ができるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			7 時間 2 学期制：6 月中旬～6 月下旬 3 学期制：6 月中旬～6 月下旬
評 価			
(知) ・たし算が用いられる場面やたし算の記号と式について知り、合併や増加の場면을たし算の式に表し、(1 位数)+(1 位数)=(10 以下の数)の計算をすることができる。			
(思) ・合併や増加の場면을、同じたし算と考えている。			
(態) ・たし算が用いられる場面に親しみをもち、たし算の式に表すよさや学ぶ楽しさを感じている。			
小見出し	時	ページ	学習内容
あわせて いくつ	1	4～5	◆具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、たし算のイメージをていねいにつくる。
	2	6～7	◆具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作や式に表すことを繰り返して、たし算の意味や表現を定着させる。
ふえると いくつ	3	8	◆具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、たし算のイメージをていねいにつくる。
	4	9	◆具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作や式に表すことを繰り返して、たし算の意味や表現を定着させる。
たしざんの もんだい	5	10	◆問題文をよんで、まず、わかっていること、求めることをはっきりさせる。 ◆具体的場面から、数図ブロックの操作や式に表すことが確実にできるようにする。
たしざんの かあど	6・7	11	◆p.139「かあどげえむ」では、「こたえは いくつ」で十分に習熟をはかる。
			○数図ブロックを操作し、「合併」の場面を理解する。
			○たし算の式を知り、たし算の式にかいて答えを求める。
			○数図ブロックを操作し、「増加」の場面を理解する。
			○「増加」の場面でも、たし算の式にかいて答えを求めることができる。
			○具体的な場면을たし算の式に表す。
			○たし算のカードを使って、たし算について習熟する。
			★5+3=8などのたし算の式をみて、数図ブロックを操作したり、合併の具体的場面のお話づくりをしたりして、たし算の意味や表現を豊かにする。
			★5+2=7などのたし算の式をみて、数図ブロックを操作したり、増加の具体的場面のお話づくりをしたりして、たし算の意味や表現を豊かにする。 ★p.136「けいさんのれんしゅう」の「間1」に進む。
			★合併・増加の問題をつくって、解きあう。
			★p.139「かあどげえむ」の「なかまあつめ」では、答えが2から10までになるたし算の式を各自でつくる。

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	12～13	○既習事項の確認と持続

7 ひきざん(1)

目 標				指導時数・時期	
○ ひき算について、式のよみ方、かき方を知り、数図ブロックや計算カードを用いた活動を通して、(10以下の数)-(1位数)の計算ができるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				10時間 2学期制：6月下旬～7月中旬 3学期制：6月下旬～7月中旬	
評 価					
(知) ・ひき算が用いられる場面やひき算の記号と式について知り、求残、求部分、求差の場면을ひき算の式に表し、(10以下の数)-(1位数)の計算をすることができる。					
(思) ・求残、求部分、求差の場面を同じひき算と考えている。					
(態) ・ひき算が用いられる場面に親しみを持って関わり、ひき算の式に表すよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
のこりは いくつ	1	14～15	◆具体的場面对応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、ひき算のイメージをていねいにつくる。	○数図ブロックを操作し、「残りの数を求める」場面を理解する。	
	2	16～17	◆具体的場面对応させながら、数図ブロックの操作や式に表すことを繰り返して、ひき算の意味や表現を定着させる。	○ひき算の式を知り、ひき算の式にかいて答えを求めることができる。	
	3	18	◆具体的場面对応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、ひき算のイメージをていねいにつくる。	○数図ブロックを操作し、「部分の数を求める」場面を理解する。	★p.136「けいさんのれんしゅう」の問2に進む。 ★ $8-3=5$ や $7-4=3$ などのひき算の式をみて、数図ブロックを操作したり、求残や求部分の具体的場面のお話づくりをしたりして、ひき算の意味や表現を豊かにする。
ひきざんの かあと	4・5	19	◆p.139「かあとげえむ」では、「こたえは いくつ」で十分に習熟をはかる。	○ひき算のカードを使って、ひき算について習熟する。	★p.139「かあとげえむ」の「なかまあつめ」では、答えが1から9までになるひき算の式を各自でつくる。
ちがいは いくつ	6	20	◆具体的場面对応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、ひき算のイメージをていねいにつくる。	○数図ブロックを操作し、「ちがいを求める」場面を理解する。	
	7	21	◆具体的場面对応させながら、数図ブロックの操作や式に表すことを繰り返して、ひき算の意味や表現を定着させる。	○「いくつ多いかを求める」場面でも、ひき算の式にかいて答えを求めることができるようにする。	★ $6-2=3$ や $8-3=5$ などのひき算の式をみて、数図ブロックを操作したり、求差の具体的場面のお話づくりをしたりして、ひき算の意味や表現を豊かにする。
	8	22	◆具体的場面对応させながら、数図ブロックの図、式に表すことを繰り返して、ひき算の意味や表現を定着させる。	○「ちがいを求める」場面でも、ひき算の式にかいて答えを求めることができる。	★どちらがどれだけ多いかを、数図ブロックの図や式を使って説明する。
ひきざんの もんだい	9	23	◆問題文をよんで、まず、わかっていること、求めることをはっきりさせる。 ◆具体的場面から、数図ブロックの操作や式に表すことが確実にできるようにする。	○具体的な場면을ひき算の式に表す。	★求残・求差の問題をつくって、解きあう。
おはなしづくり	10	24～25		○たし算やひき算の式を具体的な場面に表すことで、たし算やひき算の式について理解を深める。	

8 かずしらべ

目 標				指導時数・時期
○ ものの個数について、簡単な絵や図に表したり、よみ取ったりする活動を通して、身のまわりの事柄の特徴をとらえることができるようにするとともに、数量を整理するよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				1時間 2学期制：7月中旬 3学期制：7月中旬
評 価				
(知) ・ものの個数について、簡単な絵や図に表したり、それらをよみ取ったりできる。				
(思) ・ものの個数に着目し、身のまわりの事柄の特徴をとらえている。				
(態) ・ものの個数の整理の仕方に親しみを持って関わり、絵グラフに表すよさや学ぶ楽しさを感じている。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	26～27	○ものの数を絵グラフに表し、数の多少を比較するなどして、事柄の特徴を捉える	

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	28～29	○既習事項の確認と持続

9 10 より おおきい かず					
目 標			指導時数・時期		
○ 20 までの数について、よみ方、かき方、数の系列、大小を理解し、「10 といくつ」という数構成の考え方にもとづいて加減計算をしたり数を表したりするとともに、数に親しみながら学ぶ態度を養う。			8 時間 2 学期制：7 月中旬～9 月上旬 3 学期制：9 月上旬～9 月下旬		
評 価					
(知) ・20 までの数について、数の構成や系列、大小関係を理解するとともに、よんだり、かいたりすることができる。 ・数構成にもとづく加減計算ができる。 (思) ・10 をこえる数を「10 といくつ」ととらえたり、数構成にもとづいて加減計算の仕方を考えたりしている。 (態) ・身のまわりの 20 までの数に親しみを持って関わり、「10 といくつ」で表したり工夫して数えたりするよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	30～32	◆具体物に数図ブロックを置きながら数えて、数字を対応させて数のよみ方を理解する。	○11 から 20 までの数の数え方とよみ方を理解する。	★p.33 に進み、10 から 20 までの数図と数字をみて、数のよみ方を確認する。
	2	33	◆まず、全体で 20 までの数を繰り返し唱えたり、数図ブロックでつくったりしてから、問 2 や問 3 に取り組ませる。	○11 から 20 までの数について、かくこと、数字と数図ブロックを対応させること、大小比較をすることができる。	
	3	34	◆問 5 の㊸や㊹では、「2 ずつ」「5 ずつ」の数え方を具体物と対応させながら繰り返し唱える。	○「2 ずつ」「5 ずつ」の数え方を工夫し、それをを用いて数えることができる。 ○並んでいるものの一部分の数を数えることができる。	★「2 ずつ」「5 ずつ」を使って身のまわりのものを数えさせる。
10 と いくつ	4	35	◆数字と数図を対応させて、「10 といくつ」という見方を繰り返し行い、定着させる。	○「10 といくつ」という見方を通して、20 までの数について理解を深める。	★身の回りから、20 までの数のものを見付ける。また、20 まであといくつかを併せて考える。
かずの ならびかた	5	36～37	◆0 から 20 まで数字カード並べたら、まず、それをみて順や逆によむ練習をする。	○数字カードを並べる活動を通して、20 までの数の系列について理解し、数直線上の数をよんだり表したりすることができる。	★問 3～5 の数や順序を変えて、数をよんだり表したりする。
たしざんと ひきざん	6	38	◆数図ブロックを操作して、「10 といくつ」という見方と、たし算やひき算の仕方とを対応づける。	○20 までの数の構成に基づくたし算やひき算ができる。	★p.136「けいさんのれんしゅう」の問 3 に進む。
	7	39	◆数図ブロックを操作して、「10 といくつ」という見方と、たし算やひき算の仕方とを対応づける。	○20 までの数の構成に基づくたし算やひき算ができる。	★p.136「けいさんのれんしゅう」の問 4 に進む。
学びのまとめ	8	40～41	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	42～43	○既習事項の確認と持続

10 なんじ なんじはん

目 標			指導時数・時期	
○ 時計や時刻について、長針、短針のさす目盛りに着目して時刻を考えることを通して、何時・何時半をよんだり文字盤で表したりできるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			1 時間 2 学期制：9 月中旬 3 学期制：9 月下旬	
評 価				
(知) ・何時・何時半の時刻のよみ方を理解し、時刻をよんだり文字盤で表したりすることができる。 (思) ・時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、時刻を考えている。 (態) ・生活場面の時刻に親しみを持って関わり、時計の針の位置に目をつけることのよさや学ぶ楽しさを感じている。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	44～45	○時刻のよみについて、興味と関心をもつ。 ○時計のしくみを知り、何時、何時半の時刻をよんだり、針を合わせたりすることができる。	

11 おおきさくらべ(1)

目 標			指導時数・時期	
○ ものの長さ・かさについて、直接比較や間接比較を用いて長さやかさを調べる活動を通して、長さ・かさの概念を理解するとともに親しみながら学ぶ態度を養う。			5 時間 2 学期制：9 月中旬～9 月下旬 3 学期制：9 月下旬～10 月上旬	
評 価				
(知) ・長さ・かさの概念を理解し、具体物の長さ・かさの比較ができる。 (思) ・長さ・かさの比較を通して、測定の基礎となる考え方を身につけている。 (態) ・身のまわりものの長さやかさに親しみを持って関わり、いろいろな比べ方のよさや学ぶ楽しさを感じている。				
小見出し	時	ページ	学習内容	

ながさくらべ	1	46～49	○これまでの体験をふりかえり、大きさ比べに興味・関心をもつ。 ○長さ比べという活動に興味・関心をもち、直接比較を用いて長さを比べることができる。
	2	50	○間接比較を用いて、身近な場面で長さを比べることができる。
	3	51	○机の縦と横の長さを比べる活動などを通して、基準量のいくつ分で長さを比べられることを理解し、そのよさに気づく。
かさくらべ	4	52	○一方の容器の水を他方に移したり、別の容器に移したりして、かさ比べをする。
	5	53	○コップを単位として、その何杯分かでかさを比べられることを理解し、そのよさに気づく。

12 3つの かずの けいさん

目 標				指導時数・時期	
○ 3つの数の計算について、増えたり減ったりする場面を1つの式に表して計算することができるようにするとともに、式に表すよさを感じながら学ぶ態度を養う。				4時間 2学期制：9月下旬～10月上旬 3学期制：10月上旬～10月中旬	
評 価					
(知) ・3つの数をたしたり、ひいたりする計算の意味を知り、1つの式に表して計算することができる。					
(思) ・3つの数をたしたり、ひいたりする計算を1つの式に表して考えている。					
(態) ・3つの数が用いられる場面に親しみを持って関わり、1つの式に表すよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	54～55	◆具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、2回増えるときの式をていねいにつくる。	○3つの数の計算(+、+)の場面を理解し、計算ができる。 ○1つの式に表すよさを知り、進んで用いようとする。	★ $5+3+2=10$ などの式をみて、数図ブロックを操作したり、具体的場面のお話づくりをしたりして、式の見方を豊かにする。 ★p.137「けいさんのれんしゅう」の問5の①～③に進む。
	2	56	◆具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、2回減るときの式をていねいにつくる。	○3つの数の計算(-、-)の場面を理解し、1つの式に表して計算することができる。	★ $10-3-2=5$ などの式をみて、数図ブロックを操作したり、具体的場面のお話づくりをしたりして、式の見方を豊かにする。 ★p.137「けいさんのれんしゅう」の問5の④～⑥に進む。
	3	57	◆具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、減って増えるときの式をていねいにつくる。	○3つの数の計算(-、+)の場面を理解し、計算ができる。	★ $5-2+4=7$ などの式をみて、数図ブロックを操作したり、具体的場面のお話づくりをしたりして、式の見方を豊かにする。 ★p.137「けいさんのれんしゅう」の問5の⑦～⑨に進む。
	4	58	◆具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、増えて減るときの式をていねいにつくる。	○3つの数の計算(+、-)の場面を理解し、計算ができる。	★ $7+3-8=2$ などの式をみて、数図ブロックを操作したり、具体的場面のお話づくりをしたりして、式の見方を豊かにする。 ★「さんすうぼけっと」の「4つのかずのけいさん」に取り組む。 ★p.137「けいさんのれんしゅう」の問5の⑩～⑫に進む。

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	59	○既習事項の確認と持続

13 たしざん(2)

目 標				指導時数・時期	
○ (1位数)+(1位数)について、繰り上がりのある場合の計算の仕方を考えることを通して、計算が確実にできるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				9時間 2学期制：10月中旬～11月上旬 3学期制：10月中旬～11月上旬	
評 価					
(知) ・繰り上がりのある計算の仕方について理解し、(1位数)+(1位数)の繰り上がりのある計算ができる。					
(思) ・10の補数に着目して、繰り上がりのあるたし算の仕方を考えている。					
(態) ・たし算が用いられる場面に親しみを持って関わり、10をつかって計算するよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	60～61	◆数図ブロックを用いて10をつくる操作を身につけさせる。	○(1位数)+(1位数)で繰り上がりのあるたし算について、数図ブロックの操作を通して、10の補数を利用した計算方法を見いだすことができる。	★計算の仕方を、数図ブロックやことばで説明する。
	2	62～63	◆数図ブロックを用いて10をつくる操作を繰り返して、繰り上がりのたし算の仕方を身につけさせる。	○(1位数)+(1位数)で繰り上がりのあるたし算について、10の補数を利用した計算方法をつくり上げることができる。	★繰り上がりのあるたし算のしかたを、数図ブロックとことばを関連づけて説明する。

	3	64	◆数図ブロックを用いて、被加数があといくつで10になるかに着目させる。	○被加数が6以上(9、8、7、6)のたし算の計算ができる。 ○合併の場面のたし算を解くことができる。	★繰り上がりのあるたし算のしかたを、数の処理とことばを関連づけて説明する。
	4	65	◆数図ブロックを用いて、被加数があといくつで10になるかに着目させる。	○被加数が5以下(5、4、3、2)のたし算の計算ができる。	★「さんすうぼけつ」との「4+8のけいさんのしかた」を紹介し、被加数分解での計算に取り組む。 ★p.137「けいさんのれんしゅう」の間6に進む。
たしざんの かあと	5 ～ 7	66	◆p.139「かあとげえむ」では、「こたえは いくつ」で十分に習熟をはかる。	○たし算カードを使って、繰り上がりのあるたし算を練習し、習熟する。	★p.139「かあとげえむ」の「なかまあつめ」では、答えが11から18までになる(1桁)+(1桁)の式を自らつくる。
	8	67	◆被加数、加数の小さい順にたし算カードを示し、その答えをいわせながら並べていく。	○たし算カードの答えが同じになるものを順序よく並べ、並び方のきまりを調べる。	★見通しをもって順序よくたし算カードを並べ、きまりを見いだしたり、説明したりする。
学びのまとめ	9	68～69	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

14 かたちづくり

目 標			指導時数・時期
○ 形づくりについて、色板や棒などを使って様々な形を作る活動を通して、図形を構成する力と観察する力を身に付けるとともに、形に親しみながら学ぶ態度を養う。			5時間 2学期制：11月上旬～11月中旬 3学期制：11月上旬～11月中旬
評 価			
(知) ・色板や棒などを使っていろいろな形が構成されていることを理解し、いろいろな形をつくるができる。			
(思) ・図形を構成したり観察したりするときの基本的な見方・考え方を身につけている。			
(態) ・色板や棒などを使っていろいろな形をつくることに親しみを持って関わり、形の特徴に目をつけるよさや学ぶ楽しさを感じている。			
小見出し	時	ページ	学習内容
	1	70	○色板を使っていろいろな形をつくることに興味・関心をもち、意欲的に図形の構成に取り組む。
	2	71	○色板の並べ方を工夫して、影絵の形を構成することができる。
	3	72	○棒の並べ方を工夫して、いろいろな形を構成することができる。
	4	73	○点をつないでいろいろな形を構成することができる。
	5	74	○図形の変化に着目して、色板や棒を動かすことができる。

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	75	○既習事項の確認と持続 ○次の単元の準備

15 ひきざん(2)

目 標			指導時数・時期		
○ (十何)ー(1位数)について、繰り下がりのある場合の計算の仕方を考えることを通して、計算が確実にできるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			11時間 2学期制：11月中旬～12月上旬 3学期制：11月中旬～12月上旬		
評 価					
(知) ・繰り下がりのある計算の仕方について理解し、(十何)ー(1位数)の繰り下がりのある計算ができる。					
(思) ・10といくつにわけて、繰り下がりのあるひき算の仕方を考えている。					
(態) ・ひき算が用いられる場面に親しみを持って関わり、10といくつという数の見方で計算するよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	76～77	◆数図ブロックを用いて10のまとまりからとる操作を身につけさせる。	○(十何)ー(1位数)で繰り下がりのあるひき算について、数図ブロックを操作し、計算方法をみつけることができる。	★計算の仕方を、数図ブロックやことばで説明する。
	2	78～79	◆数図ブロックを用いて10のまとまりからとる操作を繰り返して、繰り下がりひき算の仕方を身につけさせる。	○(十何)ー(1位数)で繰り下がりのあるひき算について、計算方法をつくり上げることができる。	★繰り上がりのあるたし算のしかたを、数図ブロックとことばを関連づけて説明する。
	3	80	◆数図ブロックを用いて、10のまとまりから減数をひくといくつになるかに着目させる。	○減数が6以上(9、8、7、6)のひき算の計算ができる。 ○求差の場面のひき算を解くことができる。	★繰り上がりのあるたし算のしかたを、数の処理とことばを関連づけて説明する。

	4	81	◆数図ブロックを用いて、10のまとまりから減数をひくといくつになるかに着目させる。	○減数が5以下(5、4、3、2)のひき算ができる。	★「さんすうぼけつ」の「13-4のけいさんのしかた」を紹介し、減々法での計算に取り組む。 ★p.137「けいさんのれんしゅう」の間7に進む。
ひきざんの かあと	5 ~ 7	82	◆p.139「かあとげえむ」では、「こたえは いくつ」で十分に習熟をはかる。	○ひき算のカードを使って、繰り返し下がりのあるひき算を練習し、習熟する。	★p.139「かあとげえむ」の「なかまあつめ」では、答えが2から9までになる(十何)-(1桁)の式を自らつくる。
		83	◆被減数、減数の小さい順にたし算カードを示し、その答えをいわせながら並べていく。	○ひき算のカードの答えが同じになるものを順序よく並べ、並び方のきまりを調べる。	★見通しをもって順序よくひき算カードを並べ、きまりを見いだしたり、説明したりする。
かずあて げえむ	9	84	◆「かずあてげえむ」では、たし算なら加数、ひき算なら減数というように、裏返すところを決めて行う。	○数のカードを用いた「かずあてげえむ」を通して、加減の計算の理解と習熟を図る。 ○被加(減)数もしくは加(減)数のいずれかを裏返すことにより、□を使った式の素地活動を行う。	★「かずあてげえむ」で、裏返された数字が何かをあてるのに、どのように考えたかを説明する。
けいさんの かみしばい	10	85		○たし算やひき算の紙芝居づくりを通して、計算のお話をつくること(作問)に興味や関心をもつ。	★問3では、3口の計算になる紙芝居づくりに取り組む。
学びのまとめ	11	86~87	◆「たしかめよう」の自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

16 0の たしざんと ひきざん

目 標				指導時数・時期	
○ 0を含むたし算、ひき算について、0の扱いを考えることを通して、計算の理解を深め、0を含む計算が確実にできるようにするとともに、日常生活にいかしながら学ぶ態度を養う。				2時間 2学期制：12月上旬 3学期制：12月上旬	
評 価					
(知)・0を含むたし算・ひき算の式やその計算の仕方を理解し、0を含む計算をすることができる。 (思)・0を含む場合のたし算・ひき算の式やその計算の仕方を考えている。 (態)・0のたし算やひき算が用いられる場面に親しみを持って関わり、0があるときにも式に表して計算できることよさや学が楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	88	◆具体的な場面と式とを対応づけて、0をたすたし算の式の意味をおさえる。	○0のたし算の場面を理解し計算ができる。	★p.138「けいさんのれんしゅう」の間8の①~⑧に進む。
	2	89	◆具体的な場面と式とを対応づけて、0をひくひき算の式の意味をおさえる。	○0のひき算の場面を理解し計算ができる。	★p.138「けいさんのれんしゅう」の間8の⑨~⑯に進む。

17 ものと ひとの かず

目 標				指導時数・時期	
○ ある数量を他の数量に置き換える問題や順序数に関する問題について、絵や図を用いて考えることを通して、それらの問題を解くことができるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				3時間 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬	
評 価					
(知)・数量の対応や順序を絵や図に表したり、式にかいて解決したりすることができる。 (思)・絵や図を活用して、ある数量を他の数量に置き換えて考えたり、並んでいる数からその順番を考えたりしている。 (態)・順序数や集合数の用いられる場面に親しみを持って関わり、絵や図を使って考えることよさや学が楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	90	◆実際に場面を再現したり、絵並べたりすることを通して、問題場面をとらえさせる。	○ある数量を他の数量に置き換える問題を解くことができる。	★問1の場面で、いすの数と子どもの数を入れかえて、何脚足りないかを考える問題に取り組む。
なんばんめ	2	91	◆実際に場面を再現したり、絵並べたりすることを通して、問題場面をとらえさせる。	○順序数と集合数の問題を解くことができる。	★問2の場面で、「まえ」を「うしろ」にかえた問題に取り組む。
	3	92~93	◆実際に場面を再現したり、絵並べたりすることを通して、問題場面をとらえさせる。	○順序数と集合数の問題を解くことができる。	★問3や問4と同じ場面で、いろいろに数を取り換えた問題に取り組む。

わくわく ぷろぐらみんぐ

小見出し	時	ページ	学習内容
	1	94~95	○ロボットを動かすプログラムをつくり活動を通して、平面上の位置の表し方や簡単なプログラミングの考え方を理解する。

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	96～97	○既習事項の確認と持続

18 大きい かず

目 標			指 導 時 数 ・ 時 期		
○ 100 までの数や 100 を少しこえる数について、ものの個数や順番を正しく数える活動を通して、数の系列を理解し、大小判断をできるようにするとともに、数に親しみながら学ぶ態度を養う。			13 時間 2 学期制：1 月中旬～2 月上旬 3 学期制：1 月中旬～2 月上旬		
評 価			発 展 コー ス		
<p>(知) ・100 までの数や 100 を少しこえる数について、数の構成や系列、大小関係を理解するとともに、よんだり、かいたりすることができる。</p> <p>(思) ・「10 がいくつと、1 がいくつ」や「100 と何十何」という見方を働かせて、100 までの数や 100 を少しこえる数について考えている。</p> <p>(態) ・身のまわりの 100 までの数や 100 を少しこえる数に親しみを持って関わり、10 ずつまとめて数えたり数字や数直線で数を表したりするよさや学ぶ楽しさを感じている。</p>					
小見出し	時	ページ	補 充 コー ス	基 本 コー ス	発 展 コー ス
かずの かぞえかた	1	98～99	<p>◆問 1 では、まず、1、2、3、…と 1 本ずつ数えて、20 をこえる数の数え方を確認する。</p> <p>◆問 3 では、計算棒を使って、「10 のまとまり」をつかって数を数えたり、数をつくったりする練習を繰り返す。</p>	○数え棒の数え方を工夫し、10 のまとまりをつかって数えるよさに気づくとともに、20 をこえる数の数え方を理解する。	
かずの かきかた	2	100	◆問 3 では、十の位の数と一の位の数から、計算棒を使って数をつくる練習をする。	○2 位数の十進位取り記数法について理解する。	
	3	101		○十進位取り記数法に基づいて、2 位数の構成の理解を深める。	
100 までの かず	4	102	<p>◆問 1 では、100 枚の葉っぱの絵と対応させて 10、20、30、…と 10 ずつ数える練習をする。</p> <p>◆100 枚の葉っぱの絵を使って、見えている部分が何十枚になるように隠したとき、見えている葉っぱの数や隠れている葉っぱの数を答える問題に取り組む。</p>	○100 までの数の数え方や表し方に習熟し、100 について理解する。	★何十の計算棒をみてあといくつで百になるか、何十何の計算棒をみてあといくつで百になるかを考える問題に取り組む。
	5	103	<p>◆問 2 では、まず、1 から 100 までの数表をみて、順や逆に唱える練習をする。次に、自身で 1 から 100 までの数表をつくらせる。</p> <p>◆問 3 では、数表をみて答えられればよいものとする。</p>	○100 までの数の数表を通して、数構成や数の系列の理解を深める。	★100 までの数表にあるきまりをみつける。 ★問 3 のような問題をつくり、解きあう。
	6	104		○100 までの数の大小について理解する。	★2 つの数のどちらが大きいかを「十の位」「一の位」という用語を用いて説明する。
	7	105		○100 までの数の系列や順序を理解する。	★問 8 の後に、「2 ずつ増える」「5 ずつ増える」数の直線をかく。
	8			○すごろく遊びを通して、100 までの数について理解を深める。	
学 さがして みよう	9	106		○身のまわりで 100 までの数が使われている場面を調べ、数字を使うよさに気づくことができる。	
かいもの	10	107		○買い物場面でお金の出し方を考えることを通して、数の合成・分解に習熟し、数の感覚を豊かにする。	★1 円玉が 4 枚、5 円玉が 5 枚、10 円玉が 2 枚、50 円玉が 1 枚というように、それぞれの枚数を決めて、何円ならつくれるかを考える問題に取り組む。
100 を こえる かず	11	108	<p>◆まず、10 が 10 個で 100 であることを、計算棒を使って確認する。</p> <p>◆問 1 では、100 といくつという見方を、計算棒、命数法、記数法を対応させながらいねいにおさえる。</p>	○100 をこえる数の構成(よみ方、表し方)について理解する。	★計算棒、命数法、記数法の対応を問う問題をつくり、解きあう。
	12	109	◆耳で聞いた数を数字でかく練習をする。	○100 をこえる数の順序について理解する。	★問 3 では、130 程度までの数の数表を自分の力で作る。

学びのまとめ	13	110～111	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★やってみように取り組む。
--------	----	---------	-------------------------------------	----------------	---------------

19 なんじ なんぷん					
目 標				指導時数・時期	
○ 時計や時刻について、長針、短針のさす目盛りに着目して時刻を考えることを通して、時計を使って何時何分かをよんだり表したりできるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				2 時間 2 学期制：2 月中旬 3 学期制：2 月中旬	
評 価					
(知) ・時計の文字盤の仕組みについて知り、何時何分の時刻のよみ方を理解している。 ・何時何分の時刻をよんだり、文字盤で表したりすることができる。 (思) ・時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、何時何分かを考えている。 (態) ・生活場面の時刻に親しみを持って関わり、時計の針の位置や目盛りに目をつけることのよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	学習内容		
	1	112～113	○時計のよみに興味をもち、何時何分の時刻をよむことができる。		
	2	114	○何時何分の時刻を正しくよんだり、針を合わせたりすることができる。		

20 おなじ かずずつ					
目 標				指導時数・時期	
○ 同じ数ずつに分ける場面について、ブロックを使って等分したりまとめて数えたりする活動や、図や式にかいて確かめる活動を通して、乗法や除法の素地を培うとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				1 時間 2 学期制：2 月中旬 3 学期制：2 月中旬	
評 価					
(知) ・数図ブロックの操作を通して、乗法や除法の素地となる「同じ数ずつ」の意味を理解している。 ・乗法や除法の素地となるブロック操作ができ、それを図や式にかいて確かめることができる。 (思) ・等分したりまとめて数えたりして、乗法や除法の素地的な見方で数を考えている。 (態) ・同じ数ずつにおける場面に親しみを持って関わり、具体物を用いて実際に分けてみるよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	学習内容		
	1	115	○かけ算やわり算の素地となる「同じ数ずつ」の意味を理解し、数の感覚を豊かにする。		

活 たすのかな ひくのかな					
目 標				指導時数・時期	
○ たし算やひき算の場面に即して、適切にたし算やひき算の演算決定をすることができる。					
小見出し	時	ページ	学習内容		
	1	116～117	○たし算やひき算の場面に即して、適切にたし算やひき算の演算決定をすることができる。		

* ふくしゅう					
目 標				指導時数・時期	
○ 既習事項の確認と持続					
小単元	時	ページ	学習内容		
	1	118～119	○既習事項の確認と持続		

21 100 までの かずの けいさん					
目 標				指導時数・時期	
○ 100 までの数について、数構成にもとづくたし算、ひき算の計算の仕方を考えることを通して、計算ができるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				4 時間 2 学期制：2 月下旬 3 学期制：2 月下旬	
評 価					
(知) ・数構成にもとづくたし算・ひき算の計算の仕方を理解し、100 までの数のたし算・ひき算ができる。 (思) ・数構成にもとづいて、たし算・ひき算の計算の仕方を考えている。 (態) ・100 までの数のたし算・ひき算の場面に親しみを持って関わり、数構成にもとづいて計算できることのよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	120	◆問1では、10 ずつ数えて 40 と 30 を計算棒でつくらせて、あわせる操作をさせる。 ◆問3では、10 ずつ数えて 70 を計算棒でつくらせて、20 を取り去る操作をさせる。	○10 のいくつか分と考えると、100 までの数の(何十)±(何十)の計算ができる。	★p.138「けいさんのれんしゅう」の問9に進む。
	2	121	◆計算棒で何十と何をつくらせ、それを操作して計算の仕方を身につけさせる。	○100 までの数の構成に基づいた計算をすることができる。	★p.138「けいさんのれんしゅう」の問10に進む。

	3	122	◆計算棒を操作して、何十といくつになるかに着目させる。	○100までの数の(何十何)+(何)の計算(繰り上がりなし)ができる。	★さんすうぼけつと「25+10のけいさん」に挑戦する。 ★p.138「けいさんのれんしゅう」の問11の①～②に進む。
	4	123	◆計算棒を操作して、何十といくつになるかに着目させる。	○100までの数の(何十何)-(何)の計算(繰り下がりなし)ができる。	★さんすうぼけつと「36-10のけいさん」に挑戦する。 ★p.138「けいさんのれんしゅう」の問11の③～④に進む。

22 おおい ほう すくない ほう

目 標					指導時数・時期
○ 求大・求小の場面の問題について、絵や数図ブロック、式を用いて考えることを通して、多少の関係をとらえて問題を解くことができるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					2時間 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬
評 価					
(知)・多少の関係のとらえ方を理解し、求大・求小の問題を解くことができる。 (思)・絵や数図ブロックを用いて多少の関係を表し、どんな式になるかを考えている。 (態)・生活場面の数の多少に親しみを持って関わり、絵や数図ブロックなどを用いて考えることのよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	124	◆わかっていることや求めたいことをはっきりさせて、数図ブロックを操作して考えさせる。	○求大(大きい方を求める)の問題を、ブロックの操作や式を用いて求めることができる。	★自分の力で図、絵、式などを用いて解き、考え方を説明する。
	2	125	◆わかっていることや求めたいことをはっきりさせて、数図ブロックを操作して考えさせる。	○求小(小さい方を求める)の問題を、ブロックの操作や式を用いて求めることができる。	★自分の力で図、絵、式などを用いて解き、考え方を説明する。

23 大きさをくらべ(2)

目 標					指導時数・時期
○ 広さについて、広さを直接比べたり、任意単位を用いて比べたりする活動を通して、身のまわりのものの広さを比較し、広さの概念を養うとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					1時間 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬
評 価					
(知)・広さの概念を理解し、広さを直接比べたり任意単位を用いて比べたりすることができる。 (思)・場面に応じて広さの比べ方を考えている。 (態)・身のまわりものの広さに親しみを持って関わり、いろいろな比べ方のよさや学ぶ楽しさを感じている。					
小見出し	時	ページ	学習内容		
	1	126～127	○広さを比べる方法を考え、重ねたり□の数を数えたりすることで、広さを比べられることを理解する。		

活 かえますか？ かえませんか？

小見出し	時	ページ	学習内容
	1	128～129	○1つの品物を50円で買えるか買えないかの場面で、50より大きい、小さいという数の範囲で判断をする。(見積り地の素地)

* もう すぐ 2年生 (1年のふく習)

小単元	時	ページ	学習内容
	1	130～131	○1年生の学習内容の確認と持続
	2	132～133	
	3	134～135	

★ けいさんの れんしゅう

ページ	学習内容
136～138	○1年生で学習した計算の練習

※「けいさんの れんしゅう」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。